



NEWSLETTER

武庫川女子大学
女性研究リーダー育成推進センター

vol.5
2026.3

第3回シンポジウム開催しました

◆ テーマ：「女性研究者の視点が拓く日本文化の新地平」

日時 2026年2月13日(金) 13:30~15:30

場所 本学中央キャンパス 公江記念講堂

内容 開会挨拶 ▶学長／女性研究リーダー育成推進センター長 高橋享子

基調講演 ▶「日本文化を未来へ伝えるために」 彬子女王殿下

令和7年度 事業報告 ▶副センター長 中尾賀要子

研究発表 ▶「文様のさまざま―染色型紙と利活用―」
文学部 歴史文化学科 講師 加茂瑞穂

▶「出版時代の文学―西鶴の画期性とは何か―」
文学部 日本語日本文学科 教授 羽生紀子

閉会挨拶 ▶副学長／文学部長 郡千寿子

司会 塩田えみ(ラジオパーソナリティ・本学非常勤講師)

彬子女王殿下
日本文化を
未来へ伝えるために
武庫川女子大学
女子総合大学における挑戦的
次世代女性リーダー育成プログラム
第3回シンポジウム

2026 2/13 金 13:30~15:30

武庫川女子大学中央キャンパス 公江記念講堂

女性研究者の視点が拓く日本文化の新地平

本学では、分野横断的な共同研究や国際共同研究を推進し、女性研究者の国際研究力強化とリーダーシップ育成に取り組んでいます。シンポジウムでは、研究の方向性を明確にし、研究の推進に貢献することを目的として、議論を行います。

スケジュール Schedule

13:30 開会挨拶
高橋 享子
学長/女性研究リーダー育成推進センター長

13:35 基調講演
彬子女王殿下
「日本文化を未来へ伝えるために」

14:35 令和7年度
「女子総合大学における挑戦的次世代リーダー
育成プログラム」事業報告
中尾 賀要子
副センター長

15:25 閉会挨拶
郡 千寿子
副学長/文学部長

14:45 研究発表

文様のさまざま
―染色型紙と利活用―
文学部 歴史文化学科 講師
加茂 瑞穂

出版時代の文学
―西鶴の画期性とは何か―
文学部 日本語日本文学科 教授
羽生 紀子

武庫川女子大学 女性研究リーダー育成推進センター
Twitter: @waseda_women Email: lead@waseda.ac.jp TEL: 070-640-1104

2026年2月13日(金)、公江記念講堂にて第3回シンポジウムを開催いたしました。会場には本学の教職員や学生、附属中高の生徒約1,600名が集まり、基調講演には三笠宮家の彬子女王殿下をお迎えして、「日本文化を未来へ伝えるために」と題してご講演を賜りました。ご自身の留学体験を交えながら、文化とは人々の生活の中で息づき、変化し続けるものであると語られました。そして、「伝統とは、残すものではなく、残るもの。本日のお話が、『日本文化とは何か』『誰に手渡していくのか』を考えるきっかけになれば幸いです」と締めくくられました。

シンポジウム後半の研究発表では、本学の2名の女性研究者が登壇しました。歴史文化学科の加茂瑞穂講師は「文様のさまざま―染色型紙と利活用―」をテーマに、埋もれていた数万枚規模の染色型紙コレクションをデジタル化、分類することで、現代のデザインへ広く活用する試みを発表されました。日本語日本文学科の羽生紀子教授は「出版時代の文学―西鶴の画期性とは何か―」をテーマに、商業出版という新たな環境下で日本最初の職業作家として活動した井原西鶴の画期性について、自身の研究者としての歩みとともに発表されました。

また、中尾賀要子副センター長による令和7年度の事業報告では、本事業の推進によって女性研究者採用比率が60.4%(目標58.0%)、在職比率が46.3%(目標46.0%)に達し、主要な数値目標を上回る成果となったことが報告されました。今後はこれらの成果を「武庫川モデル」として社会実装し、次世代女性リーダー育成をさらに加速させていく決意が語られました。



彬子女王殿下



高橋享子 学長



加茂瑞穂 講師

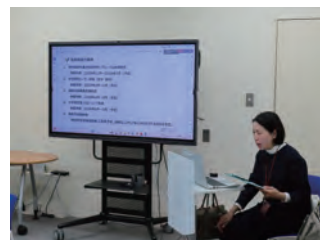


羽生紀子 教授

女性研究者交流会

2025年11月21日(金)、サイエンス・コモンズにて「女性研究者交流会」を対面とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。当日は教職員や大学院生に対して、中尾賀要子副センター長より本事業の各種支援制度について説明が行われました。

主に「架橋横断的重点共同研究・グローバル共同研究」「女性研究リーダー研修(在外・国内)」「国際学会発表支援制度」について紹介があり、各制度の目的や具体的な募集時期、改正点など詳細が共有されました。説明後の質疑応答では、制度の活用方法に関する具体的な質問も挙がり、支援制度の利用をめぐる対話を通じて、研究者同士の交流が生まれる機会となりました。



サイエンス・コモンズ セミナー

本センターでは、学内外の方々に本学の多様な研究に触れていただく機会として「サイエンス・コモンズ セミナー」を定期開催しています。2025年度は計8回のセミナーを実施しました。今年度は、オープンスペースを主な会場としたことで、通りがかった教職員や学生が気軽に立ち寄り、本学の研究に触れられるようにしました。また、対面とオンラインのハイブリッド形式のセミナーでは、遠方からの参加者ともリアルタイムで活発な質疑応答が行われました。2026年度も継続して開催する予定です。

■ 開催報告

※第1回～第3回については、NEWSLETTER vol.4に掲載

- 【第4回】9月24日(水) 「親ガチャ時代にできることー公教育のいま」
教育総合研究所 志水宏吉 教授
- 【第5回】10月29日(水) 「隣人と暮らす住まいのかたちーデンマークと日本の事例から」
建築学科 宮野順子 准教授
- 【第6回】11月26日(水) 「何歳まで倒立できる？生涯現役を貫くマスターズの世界」
スポーツマネジメント学科 五藤佳奈 准教授
- 【第7回】1月28日(水) 「フランス音楽政策の現在(いま)ーパリ現地レポートー」
応用音楽学科 永島茜 准教授
- 【第8回】2月24日(火) 「地域アーカイブズの保存・利活用とその課題ー古文書をまちづくりに活用したいー」
歴史文化学科 河野未央 准教授



MUKOJO研究ポットラック

研究者がそれぞれの研究シーズを持ち寄り、対話を通じて仲間を見つけ、新たな共同研究を育てる場として「MUKOJO研究ポットラック」を定期開催しています。2025年度は、ランチタイムに開催したり、普段とは異なるキャンパスで開催するなど、交流の活性化を図りました。また、今年度は話題提供者に本事業の「架橋横断的重点共同研究・グローバル共同研究」に採択された研究者が多く含まれていました。採択者による取り組みの共有は、参加した他の研究者にとっても大きな刺激となり、新たな研究アイデアの創出へと繋がる契機となりました。

■ 開催報告

- 【第1回】8月 6日(水) 「感情リテラシー、教育工学、子ども」
社会情報学科 榎並直子 准教授／
社会情報学科 和泉志穂 准教授
- 【第2回】10月 9日(木) 「地球に優しいモノを使った武庫女発フェムテックを考えよう！」
生活環境学科 澤渡千枝 教授／薬学科 吉田都 教授／
健康生命薬科学科 仁木洋子 准教授
- 【第3回】10月16日(木) 「女性のからだを支えるスポーツと栄養ー健康とパフォーマンスの両立ー」
健康・スポーツ科学科 中堀千香子 准教授／
食創造科学科 今村友美 准教授
- 【第4回】11月21日(金) 「『がん』とどう戦うか？」
健康生命薬科学科 中瀬朋夏 教授／薬学科 吉川紀子 准教授
- 【第5回】12月 4日(木) 「音楽で社会を支える・社会を創る」
応用音楽学科 一ノ瀬智子 教授／応用音楽学科 永島茜 准教授



国際学会発表支援制度 報告会

2025年度より、本事業の一環で「国際学会発表支援制度」を新設しました。本制度は、国際学会等における研究発表を目的とした海外渡航費や学会参加費等を支援するもので、今年度は4名の女性研究者が採択されました。

2026年2月17日(火)、サイエンス・コモンズにて本制度の利用者が研究発表の成果や現地での活動知見を共有する報告会を開催いたしました。発表では、学会の概要や発表内容にとどまらず、現地の雰囲気、新たな研究者との出会い、さらには今後の研究計画や意気込みなどが語られました。また、本支援制度が具体的にどのように研究活動の助けとなったか、あるいは今後の課題や改善点についても、現地の写真や動画を交えながら紹介されました。参加者からは、将来の制度利用に向けた具体的な質問が寄せられ、今後の活用に向けた有益な情報収集の場となりました。



大学院生交流会

2026年3月3日(火)、「第3回大学院生交流会」を開催しました。大学院生14名、大学院進学に関心のある学部生3名、教職員11名の計28名が参加しました。本交流会は、若手研究者の育成と大学院の活性化を目指し、2024年度より開催しています。2025年度からはFD推進委員会と共催となり、大学教員を目指す大学院生が主体となり、イベントの企画立案から当日の進行までを担当しました。

今回はポスターセッション形式の研究発表後、自由なディスカッションを行う「交流タイム」を設けました。運営した大学院生からは、「前回のアンケート結果から参加者のニーズをどう反映させるかアイデアを出し合い、準備を進めてきた。参加者の楽しそうな姿を見たり、会を楽しみにしているという言葉をもったりすると励みになる」との声が聞かれました。参加者からは、「自分の研究を異分野の人が分かるように説明するのは難しいが、練習になる」「研究は一人で進めるものではなく、様々な人との交流の中で深まっていくものだと思えて感じる」「久しぶりの参加で緊張したが、過去に参加した際に顔を合わせていた何人かの人が覚えていてくれて嬉しかった」「この会のおかげで段々と学内に知り合いが増え、研究生生活について相談できる人が増えてきた」など、多くの肯定的な感想が寄せられました。大学院生交流会は、単なる研究発表の練習に留まらず、仲間づくりの貴重な場となっています。



英語スキルアップ研修

本研修プログラムは、本学の研究者が国際的な舞台で自信を持って研究成果を発信できるよう、アカデミックな場における実践的な英語運用能力の向上を目的に開催しています。2025年度は学外からネイティブ講師をお招きし、ライティング編とスピーキング編を計3回にわたり実施しました。ライティング編では、学術論文の基本的な構成の確認に加え、各セクションで役立つ効果的な語彙の使用方法、パラフレイズの技術、他者の研究成果を適切に引用・要約する方法について実践的に学びました。また、スピーキング編(基礎・発展)では、明瞭で聞き取りやすい発話や発音練習に重点を置きつつ、実際のプレゼンテーションや質疑応答、ディスカッションを想定した演習を実施。自らの意見を明確に伝え、対話を深めるための具体的なスキルを習得しました。

参加者からは、「スピーキングの練習を通して、他分野の研究者との交流にもなり有意義だった」「初心者でも参加しやすかったので、定期開催してほしい」といった前向きな感想が寄せられ、国際的な研究発信への意欲を高める貴重な機会となりました。



■ 開催報告

【第1回】9月20日(土)「ライティング編」

講師: Peter Ferguson 先生(近畿大学 経済学部 准教授)

【第2回】10月18日(土)「スピーキング(基礎)編」・【第3回】11月29日(土)「スピーキング(発展)編」

講師: Christopher Hellman 先生(立命館大学 言語教育推進機構 講師)

海外研究者招聘ワークショップ・講演会

2025年9月26日(金)・27日(土)の2日間、海外研究者招聘ワークショップ・講演会を開催しました。講師には、ニュージーランドの国立大学Victoria University of Wellingtonで応用言語学の准教授を務めるAnna Siyanova-Chanturia先生を講師にお迎えしました。26日のワークショップは、本学の教職員および大学院生を対象に実施され、単語や複数語表現の概念、研究データの読み取り方などについて、参加者へ問いかけを交えたインタラクティブな形式で展開されました。翌日27日の講演会では、第二言語の語彙学習における近年の動向が紹介され、実際の研究データをもとに語彙の付随的学習に焦点を当てた内容が解説されました。講演会は一般向けに開催され、他大学の学生等も参加し、質疑応答では研究方法や研究成果の教育実践への応用等について、活発な意見交換が行われました。



国際学会発表準備セミナー

2025年11月1日(土)「第2回国際学会発表準備セミナー」を開催し、教職員および大学院生が参加しました。講師には、立命館大学のThomas Pals教授をお招きしました。セミナーでは、効果的なプレゼンテーションの基本構成として、イントロダクションから結論に至る論理的な流れや、スライド作成のコツ、聴衆に伝わる表現方法について実践的な演習が行われました。特に、参加者が実際の国際学会で発表予定の内容に対し、講師から直接、丁寧なフィードバックを受けられたことは、参加者にとって大きな自信に繋がったようです。国際的な研究発信に向け、個々の課題が明確化される非常に実り多い時間となりました。



データ分析セミナー

2025年12月20日(土)「若手研究者のためのデータ分析法セミナー」を開催し、教職員および大学院生が参加しました。講師には、本学の食物栄養学科の小林知未准教授をお迎えしました。セミナーでは、データ分析の基本的な考え方や手順について、統計解析ソフトウェア「IBM SPSS Statistics」を用いた実践的な演習を実施。初学者にも配慮し、研究に即活用できる基礎的な分析スキルの習得を目指しました。参加者からは「SPSSの操作を復習する良い機会となり、また頑張ろうと思えた」「専門用語が身近な例えで解説され、非常に理解しやすかった」との声が寄せられました。本セミナーは、データ分析への苦手意識を払拭し、研究の質を向上させるための有意義な学びの場となりました。



ライフイベント・研究活動両立支援セミナー

2025年10月25日(土)、「今からできる!親と自分の『介護の備え』～ライフイベントでキャリアを中断しないために～」を開催し、教職員および大学院生が参加しました。本セミナーは、介護等のライフイベントに直面しても経済的不安なくキャリアを継続できるよう、今からできる「備え」の知識や心構えを学ぶことを目的としています。講師には、本学卒業生でヤングケアラーとしての経験や管理職での介護両立に深い知見を持つ阿部美穂氏(ジブラルタ生命保険株式会社)をお迎えしました。講演では、親の介護と仕事の両立やシングルの老後への備えについて、実体験に基づいた具体的な助言をいただきました。参加者からは「介護と仕事の両立に悩んでいたが、背中を押された」「世代を問わず、若いうちから準備すべき内容だと感じた」といった声が寄せられました。



ランチタイムミーティング

2026年3月5日(木)、学内保育ルーム「ラビークラブ」で、本学女性研究者および教職員を対象としたランチタイムミーティング「子育て交流会」を開催しました。今回は、4名の教員が参加。さらに、アドバイザーとして看護学科の金谷教授と食創造科学科の北村教授、オブザーバーとして教育学科の中村教授が加わり、合計7名でランチを囲みながら親睦を深めました。当日は2歳の「特別ゲスト」も参加し、交流会に華を添えてくれました。

お子さんの年齢が近い参加者同士、食事や体調管理の悩みなど、切実な話題に多くの共感が寄せられ、活発な情報交換が行われました。加えて、未就学児を育てながら「学外の入試業務をどう担うか」といった、キャリアと家庭の両立についても深く語り合う場面もありました。90分間、終始笑い声と共感の言葉が絶えず、お互いの日々の奮闘をリスペクトし合える素晴らしいひとときとなりました。今日のご縁が今後も続いていくことを願い、温かな空気の中で会を閉じました。



VOICE紹介

武庫川女子大学サイエンス・コモنزのホームページの「VOICE」コーナーでは、研究支援制度採択者の活動報告やメッセージを随時公開しています。制度の活用内容や成果を具体的に知る機会として、ぜひ右の二次元コードからご覧ください。



女性管理職インタビュー動画配信

本学で管理職を務める女性研究者のインタビュー動画を昨年度より制作・公開しています。今年度は、新たに2名の女性研究者の動画を制作いたしました。下記の事業紹介のホームページ、武庫川女子大学サイエンス・コモنزのホームページからどうぞご覧ください。

武庫川女子大学 女性研究リーダー育成推進センター

〒663-8558 兵庫県西宮市池開町6-46
TEL (0798)45-3506 FAX (0798)45-3686
E-mail cewl@mukogawa-u.ac.jp



事業紹介HP



武庫川女子大学
サイエンス・コモنز
HP



武庫川女子大学
サイエンス・コモنز
Instagram